

桜の道

歌・詞・曲：伊勢正三

道は歩くためよりも
春にはむしろ見るためにある
2人で歩いたこの道も
舞い落ちるピンクの花びらいっぱい

私が歩く度に
はらはらと散る花びら
私が息をする度に
心の中にまで散る花びら

まるであいつと別れるまでの
数え切れない思い出を

一つずつ懐かしむように
山国の遅い桜は散る

今は丸木橋もなく
川には釣り人の姿も無い
2人で歩いたこの道も
いつの日か花びらも散らなくなる

私が振り向く度に
はらはらと散る花びら
私が上を向く度に
頬をかすめて散る花びら

まるであいつが桜の陰に
隠れているようなときめきを

やわらかく包み込むように
山国の遅い桜は散る